

## ▼アボビスカプセル [内] &lt;2021.3 販売中止&gt;

【重要度】 【一般製剤名】 アクラトニウム ナパジシル酸塩 aclatonium napadisilate 【分類】 消化管運動調節剤

【単位】 ▼50mg/Cap

【常用量】 150mg/日

【用法】 分3

【透析患者への投与方法】 透析患者の投与方法に言及した文献はないが、糞便中に排泄されるため減量の必要はないと思われる (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 薬物動態に言及した文献はないが、糞便中に排泄されるため減量の必要はないと思われる (5)

【特徴】 消化管運動促進作用のある葛根の有効成分として開発された。各組織のアセチルコリン受容体に直接作用して消化管の運動を促進する。特に胃、胆嚢及びoddi筋に対する作用が著明。しかもその際に胃液分泌にはほとんど影響を与えない。慢性胃炎、胆道ジスキネジー、消化管手術後の消化器機能異常（悪心、嘔吐、食欲不振、腹部膨満感）に適用。

【主な副作用・毒性】 動悸、倦怠感、発汗、消化器症状、眠気など

【吸収】 未変化体としては吸収されない。代謝物の塩基は吸収されるが、酸は吸収されない (1)

【代謝】 消化管において塩基部分と酸基部分に分かれ、薬理活性を示す塩基部分のほとんどは吸収されるものの、コリンエステラーゼにより速やかに加水分解され不活化される (1) 薬理活性を示さない酸基部分はほとんど吸収されることなく糞中へ排出 (1) 塩基部位から加水分解されたアセチル尿酸は尿中排泄もされるが、さらに乳酸、酢酸へ変換される (1)

【排泄】 ほぼ糞便中に排泄される (1) 代謝物のアセチル乳酸の尿中排泄率は約40% [12hr まで] (1)

【蛋白結合率】 ほとんど結合しない (1)

【Vd】 未変化体は吸収されないので不明 (1)

【MW】 722.82 (塩)

【透析性】 データなし (1)

【TDMのポイント】 TDMの対象にはならない

【相互作用】 抗コリンエステラーゼ剤により作用増強 (1)

【更新日】 20200910

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。